

第一問

- (一) 生後一年ごろまでの人間の乳児は鏡に映る自身の身体を他者として知覚しており、眼前の鏡像を遊び相手である他者として認識しているから。
- (二) 鏡像を他者と見る時期とそれを自己と認識する時期の間に、他者である鏡像が自己の身体と連動することに奇妙さを感じる時期が存在するから。
- (三) 群れで育ったチンパンジーは自己から見た他者の身体と、他者から見た自己の身体像を学習しており、後者が鏡像であることが認識できるから。
- (四) 私たちが鏡に映る自己の像を自分自身として認識するためには、他者とともに生きることを通じて他者の視点から見た自己像を学ぶ経験が必要であり、自身の身体イメージの形成には他者から自己に向けられる視線が不可欠の要素として含まれているということ。(二一八字)
- (五) a || 探索 b || 半端 c || 額

第二問

- (一) アⅡ驚きあきれるほどにみすぼらしい身なりをしている
イⅡ見間違いだろうか
エⅡ何もできずそれきりで終わりました
- (二) 清水寺の高僧であるはずの宝日の奇行に対する悲嘆。
- (三) 世俗を遠ざけ名利への執着を絶つ宝日に出家者の理想を
見たから。
- (四) 陰徳僧と露見して凡俗の崇敬を一身に受けることへの拒
絶。
- (五) 瞬く間に明けては暮れる一日のように、人の命も無常で
あること。

第三問

- (一) a 〓 一まとめに論じてはいけない
b 〓 後の世にまで名を残す
d 〓 知らず知らずのうちに
- (二) どうして仏道を学ぶことについてだけ大いに好む事の是非を疑おうか、いや疑う必要はないのだ
- (三) 水が石をぬらすように、長い期間をかけても変化が生じないこと。
- (四) 学芸を極めるのに漫然と修行しても効果はなく、対象への専心を保持しなければならない、ということ。

第四問

- (一) 日頃から苗木を買っている男に対して、本職の植木屋から彼への支払いの倍の金額で木を買うことで不本意な気持ちに味わわせると思ったから。
- (二) いつも大きな木を所望していたにもかかわらず、苗木屋が小さな苗しかもってこないのので、他の業者から木を買うのもやむをえないと思ったから。
- (三) 小さな檜葉を買う際に苗木屋が言った「すぐに大きくなる」という言葉が現実になり、彼に会わぬ時間と彼への申し訳なさを感じたということ。
- (四) 仕事でともに引け目を感じたことに共感を抱きながらも、それきり姿を見せなくなった苗木屋の毅然とした態度をうらやみ、彼を追憶する心情。